

■ 「どう生きるか」という問い ■

昨年勤めていた学校でのことである。突然の衆議院解散に伴い、選挙が行われることになった。3年生で選挙権を持つ生徒が何名いるのかを調べるために、教頭が3年生およそ400人の誕生日でカレンダーを埋めていったところ、誰の誕生日でもない日が139日あった。この数は、かなり多いように感じた。

400人に対して、139日が多いか少ないかを判定するには、理論値を算出すればいい。そこで、「1年を365日、生徒 n 人として、誰の誕生日でもない日数の期待値を n で表せ」という問題にして、数学科の先生に出した。

ところが、数日待っても解答が寄せられない。普段は東大・京大をはじめとする難関大の入試問題の質問にも答えているのに、これはどうしたことだろう？ その後、年配の先生が解答を持って来るまでさらに数日を要した。

この現象は、解けるかどうか判らないというだけで、解決へのハードルが格段に上がることを意味している。たとえ難関大であっても大学入試問題が解けるのは、高校で教わる範囲の知識で一定の時間内で解答可能であることが約束されていることによる。

一昨日に2次試験が終わり、明後日は卒業式である。3年生はこれまでよく頑張ってきたと思う。特に今年度の成長は胸を張れるものだった。

大学入試とは異なり、この先、大学での研究には、答えがあるとは限らない。また、社会に横たわる問題には複数の解決方法から最善解を見つけなければならないこともある。解けるかどうか判らないから価値がある。まだ誰も成しえないから挑戦する意味がある。そんな未知への冒険を楽しんでもらいたい。

RADWIMPSに『正解』という曲がある。18歳の若者に向けて書かれた歌詞にはこんなフレーズが出てくる。<答えがある問いばかりを教わってきたよ／だけど明日からは僕だけの正解をいざ探しに行くんだ>。そして、こう続く。<次の空欄に当てはまる言葉を書き入れなさい／ここでの最後の問い／「明日からの日々を／僕は(私は) きっと □□□□□□□□□□」>。

歌はこのように括られる。<制限時間はあなたのこれからの人生／解答用紙はあなたのこれからの人生／だから採点基準はあなたのこれからの人生／「よーい、はじめ」>。

卒業生が巣立ちゆく。「人生をどう生きるか」という問いへの自分だけの答えを探す旅が始まる。明倫魂を胸に、どうかすばらしい未来を。

